

# 子どもと教育

子どもと教育・くらしを守る  
徳島県教職員の会



この号の内容  
県教委に要求の実現を求める

## 県教委に要求の実現を求める

教職員の会は10月9日、教育現場の切実な要求約70項目の実現を求めて、県庁会議室にて県教委に要請しました。会員6名が参加し、県教委からは14名の出席がありました。

井内代表世話人は冒頭挨拶で、「教職員は、多様で深刻化する教育課題に向き合い、奮闘している。この教職員の頑張りを支え助けるのが教育委員会だ。本日の要請により、教職員が教育に専念し、充実した教育実践ができる条件整備が進むことを希望する」と述べました。



## 未配置・遅配置を、県教委の責任でなくすこと

**教職員の会**：保護者からよく相談がある。子どもが学校に行きたがらず、よく休む。担任がないから、入れ替わり立ち替わり先生が替わる。先生の話や授業がよく分らない。休み時間に先生に聞こうと思ったが先生はない。教職員の会の4・5月の調査で、34校中18人の未配置・遅配置があった。これでは学力の向上は期待できない。県教委は、学力向上とか学力テストの結果とかよく言うが、未配置の実態と矛盾していないか。

**県教委**：未配置については迷惑をかけている。正規率を上げると共に教員になりたいという母数をあげることが必要だ。ティーチャーズバンクの充実などと共に若い大学生・高校生に教員の魅力を発信していくように取り組んでいく。

**教職員の会**：教員配置は教育委員会の仕事でないのか。

**県教委**：そうだ（教員配置は県教委の仕事）。退職教員とかに声かけをしているが、若い人に働きかけるとか、同時進行でやっていく必要がある。

**教職員の会**：未配置・遅配置がたくさんあるのは、我々が提案したことをやってこなかったからだ。やつたら、きちんとできる。実行を求めたい。

## 市町村立学校のエアコン設置に補助をすること

**県教委**：小中学校におけるエアコンの整備については、国庫補助の対象となっている。市町村に対して補助整備に関する情報提供や技術的支援を行っていく。

**教職員の会**：エアコンのない特別教室での夏場の授業は、危険な状態で、悲鳴があがっている。一般の方に言うと、「エアコンのない教室で学ぶなんて、とんでもない。考えられない。放置している感覚が分からない」との声が返ってくる。犠牲者が出てからでは遅い。「情報提供や技術的支援」というのは、何もないに等しい。

**県教委**：空調整備については、市町村で国の補助を活用して進めてほしい。

**教職員の会**：せめて、来年の夏までにスポットクーラーの補助をしてほしい。犠牲者が出てからでは遅い。

## 市町村に対し、学校図書館司書の配置を強く働きかけること

**教職員の会**：今年は、第6次5カ年計画の3年目にあたる。学校図書館司書の配置は、全国では7割を超しているが、徳島県は小中学校共に2割弱。小学校はワースト3位、中学校はワースト2位だ。去年、財政措置がされているので司書配置に使うよう市町村教委に強く言うことを要望した。司書配置は、今年度、増えたのか。

**県教委**：増えたところはない。各市町村教育委員会に対し、財政措置がなされているので、活用して図書館の充実に向けて取り組むように働きかけている。

**教職員の会**：どのように周知しているのか。

**県教委**：管区別教育長や市町村教育委員会訪問を通じて周知しており、今年度も周知する予定だ。今後も機会あるごとに読書環境の改善につとめるよう働きかけていく。

**教職員の会**：県庁所在地で配置していないのは、青森市と徳島市だけだ。ワースト2だ。恥ずかしいことだ、毎年、「周知する予定」とあるが、本気でやってもらわないといけない。言うだけというのでは困る。徹底しあしい。

## 保護者負担による災害食料備蓄を求めるのは 問題

**県教委**：県立学校長に対し、災害食料等についての文書を発出し、帰宅困難になった場合、各学校の状況等をふまえ、整備につとめるよう依頼している。市町村教育長に対しては、県立学校通知を参考にし、実情に合わせて適切に対応する事務連絡をしている。

**教職員の会**：文科省は「市町村と協議するように」と言っている。市町村は、「（行政の）備蓄物を子どもたちが使ってよい」と言っている。ところが県教委は5月の研修会時に、「市町村保管分以外に1日分以上を確保しなさい」等と言っている。これは問題だ。

**県教委**：市町村については、あくまでも県立学校の通知を参考に、実情に合わせて適切に対応してくださるよう連絡している。

**教職員の会**：5月の文書は、方針ではないということでよいか。現場が混乱している。

**県教委**：誤解のないようにしていきたい。





## 大阪・関西万博の諸問題を周知し、参加を推奨しないこと

**県教委:** 万博参加は強制するものではなく、各学校が判断するものと考える。

**教職員の会:** 現地の危険な情報は学校では話題になっていないようだが、情報提供されているか。

**県教委:** 万博協会などからの情報を、担当課から提供している。

**教職員の会:** ガス爆発のこと、ガスが出続けていることや帰還が困難なこと、トイレがどこにどれくらいあるかなどは、重大なことだ。これらは、周知徹底されているのか。

**県教委:** 下見のことやトイレの設置状況などについても、8月に万博協会から説明があった。9月には、徳島県万博推進課からオンラインで情報の提供があった。

**教職員の会:** 補助金を出すということは「素晴らしいところだ」と言っているのと同じなので、デメリットもあるということをきちんと分りやすく伝えてほしい。

## 高校入試事務での深夜に及ぶような勤務実態を把握し、是正の取組みを

**教職員の会:** 保護者から、「夜中の1時半や3時、出願当日の朝5時に面接して高校出願の調印をしている。先生は3日間家に帰っていない」という話があった。把握しているか。

**県教委:** 教職員課では把握できていない。

**教職員の会:** 他にも似たような過度の負担の事例がある。正確に勤務実態を把握し、是正すべきだ。制度に問題があるなら改善していく必要があるのではないか。

**県教委:** 進学時に過度な負担にならないよう、市町村教委に働きかけていく。

## 臨時教員不足の解決について

教職員の会から、「昨年、今年と学校現場にアンケートしたが、事態は深刻だ」「文科省も全国の自治体に『教師不足アンケート』を行い、解決の方向として、『教員定数の非正規教員を正規に置き替えること』を打ち出している。私たちの要求と同じだ。今年の採用審査では、予定数より正規採用の人数を増やしたようだが、これで来年度『臨時教員不足』は改善する見込みなのか」と質問した。

県教委は、「来年度の採用予定者は、過去10年で一番多い」「改善する見込み」と回答したが、「今後、定年退職者が再任用にどれくらいなるか未定」と不確定な要素もあることを述べた。

つまり、退職者を再任用(=正規)にして正規率をあげようとしていることがわかった。教員定数のうちの正規率は、昨年度で小中87.2%(高校92.1% 特別支援78.8%)であるが、目標として小中で95%を掲げている。これを早く達成するよう要請した。



## 定欠削減のために二段階の採用発表を

次年度の教員定数の見通しが立つ1月以降に追加採用を行うことを要請。高知県が行っており、徳島県も過去に行っていたことを指摘した。

「検討してみる」との回答。

## 正規教員による代替制度を検討すること

「定年延長により、退職後働く人は減少するし、臨時教員も、昨年度から『臨時教員特別選考』受審者が減少し始めている。今後、臨時教員による欠員補充制度は、ますます困難になって来ると思われる。全国的には、大阪市や長野県で正規教員による補充制度を始めた自治体もある。このような制度を研究する必要があるのではないか」と指摘。

県教委は、大阪市や長野県の事例を聞きたいようだったので、ぜひ直接話を聞いて、「正規教員による代替補充制度の研究」を始めるよう要請した。「検討する」との回答であった。

## 1次審査の合格者は次年度1次審査免除に

教員の採用は「選考」なので、本来、筆記審査や面接をしなくてもよい。「職務遂行能力」の有無が選考基準。臨時教員として繰り返し任用されているのは、現場正規教員と同じように働くことの証明だ。取りあえず、「2年以上の臨時経験者は1次免除」「少なくとも、一度1次に合格したら次年度は免除にしてほしい。香川県は今年からしている」と要請。

県教委は「採用制度の検討は毎年行っている。この提案も含めて検討する」

## 他県の様子見にならず、待遇の改善を

教職員の会は、「今年度、全国一採用審査を早期化した静岡県は志願者が減った。近年減少しているが、一度だけ増えたのが2020年度。常勤講師を『教諭』にし、給料を2級にした年だ。臨時教員確保には、待遇改善は欠かせない」と主張。常勤講師の2級格付けや、非常勤講師の年間時数制限引き上げや、授業以外の勤務時間を大幅に認めることが必要性を強調した。

